

2020(令和2)年度 みやぎ心のケアフォーラム実施報告

はじめに

みやぎ心のケアフォーラムは、2017年度よりみやぎ心のケアセンター（以下、当センター）が支援者間の交流や情報共有を目的に主催してきたもので、今回で4回目の開催となる。震災から10年という大きな節目にあたることから、2020年度はこれまで10年の支援活動を総括する内容とすることが、早い段階から見込まれていた。

しかし、前回の心のケアフォーラムを終えたわずか1カ月あまりのうちに新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大をみせるようになり、さまざまな研修などの企画は軒並み中止や延期を余儀なくされることとなった。

その後も、宮城県内では感染者数が大きく浮き沈みを繰り返す中、果たして2020年度のフォーラム開催が可能か否か、開催するとすればどのような形であれば安全性を担保できるか、まさにその試行錯誤に明け暮れた1年であった。

1. 実施概要

当初は2020年11月に仙台市福祉プラザを会場に開催予定であったが、県内の新型コロナウイルス感染症が秋口から増加傾向にあったことから対面での開催を断念、あらためて2021年2月頃のネット配信による開催を目指して準備を始めた。慣れない形式での実施に不安も大きかったが、担当者間で入念な打合せを重ねるとともに、外部協力者の手も借りながら開催に臨んだ。

発言者は東日本大震災発生後、県内のメンタルヘルスに関連する支援活動を中心的に担ってきた下記4名の方々とし、すべての参加はWebのみとした。また、感染リスク軽減のため時間を制限し、撮影会場内も発言者同志のディスタンスを十分に保ち、こまめに換気と消毒を行うなど配慮した。さらに通信回線によるトラブルを回避するため、参加者からの質疑については口頭ではなく「Q&A」の機能を活用して行った。新型コロナ感染症対策と通信環境の整備の両方に可能な限りの配慮をして実施した。

(1) 開催趣旨

全県的・広域的な視点に立ち、支援者の実践報告から被災地の現状を共有し、参加者の意見交換を通じて知見を深めるとともに、今後の地域精神保健福祉のあり方を模索することを目的とした。

(2) 開催日時 2021(令和3)年2月27日(土) 13:00～15:00

(3) 開催形式 Web会議システムZoomを使用

(4) 対 象 被災者支援に関わる自治体や関係団体職員などの支援者

(5) テーマ これまでの被災者支援への総括と地域精神保健福祉に対する展望

(6) プログラム 第一部 宮城県における被災地の心のケアを総括する(13:05～14:05)

発言者：白澤 英勝氏(医療法人東北会 東北会病院 理事)

原 敬造氏(からころステーション・原クリニック 院長)

小原 聡子氏(宮城県精神保健福祉センター 所長)

福地 成(みやぎ心のケアセンター 副センター長)

第二部 ディスカッション(14:05～15:00)

2. 参加者アンケート結果から

参加者81名のうち、45名の方(回答率55.6%)から回答いただいた。参加者内訳は約半数が行政機関、医療機関関係者で、その他福祉関係者、教育関係者、民間団体などとなっている。今回は県外からの参加者も3割ほどあった。

内容に対する評価は「とてもよかった」が8割以上、「まあまあよかった」と合わせてほぼ100%となるなど、

非常に高いものであった。感想に多く記載されていたのが「地区（地域）診断」「アウトリーチ」「人材育成」で、それらの必要性、重要性を再認識する機会となったとの声が多くあった。ほか、コロナ禍における支援活動の在り方を問う声、このようなZoomによる企画の実施を今後も希望する声などが複数寄せられた。

3. 開催動画ならびに当日資料の公開について

今回のフォーラムの動画は、当日資料と共に一般公開している。当センターホームページ内からアクセス可能であるため、参加いただけなかった方には、後述のアクセス方法を参考に、ぜひ確認頂きたい。

4. まとめ

今回、コロナ禍による苦肉の策でZoomを活用しての開催となったが、一方でいくつかメリットもあった。

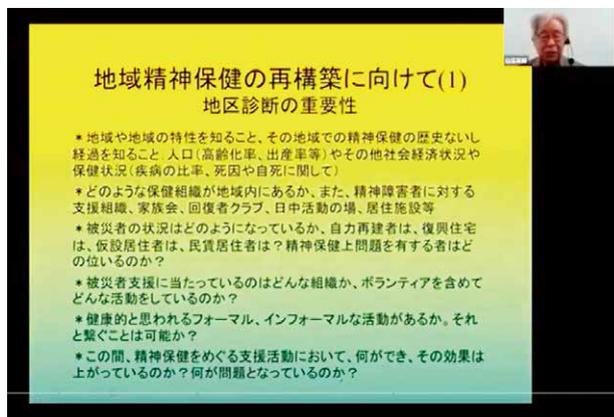
ひとつは、他県はもとより海外からも、参加頂けたことである。宮城県には震災直後から多くの県外支援者が訪れている。またかつて当センターに勤務した支援者もそれぞれ他県で活躍している。そういった方々が、それぞれの地元をいながら、震災から10年が経過した宮城県の現状を知る機会を提供できたことは意義があったと考えている。当センターにとっても、多くの方が未だに宮城県に関心を向けてくれる事をありがたく感じた。

さらに、今回は当日の様子を録画しホームページへ掲載した。今回発言いただいた方々は、東日本大震災後の宮城県のメンタルヘルスをそれぞれの立場で支えてきた中心人物であり、そのような方々の資料や発言を取りまとめることで、新たな災害に向けた貴重な資料として役立てて頂けると考える。いずれもコロナ禍の危機的状況から生み出された新たな発信方法である。

今後も当面、コロナ禍は続くと考えられる。2020年度はサロン活動など、コロナ禍によって制限された事業も多くあったが、コロナ禍での事業実施ノウハウを積みかさねてきたことで、少しずつ事業の再開に向けた動きも出てくるようになった。被災地域にとっての大切な場、つながりを今後も十分な配慮と工夫で継続していく必要があると考えている。



フォーラム 撮影会場の様子



ホームページから配信するyoutube動画

【アクセス方法】

①センターホームページ<http://miyagi-kokoro.org/>にアクセス。

*またはブラウザで「みやぎ心のケアセンター」で検索。

②ホームページトップページメニューから

「活動報告」➡「心のケアフォーラム（令和2年度）」

➡「令和2年度 みやぎ心のケアフォーラム」（R3.2.27開催）

➡「[動画はこちら](#)」からアクセス。

【スマホからのアクセス】

上記方法のほか、右記のQRコードからもアクセス可能です。

